

語学研修終了報告書

報告年月日 2019 年 4 月 16 日

留学プログラム名	TASTE
所属学院等 (学院/類/学部/研究科)	物質理工学院
所属系・コース等 (系・コース/学科/専攻)	応用化学系
留学時の学年	学士 2年
留学先国	オーストラリア
留学先大学	クイーンズランド大学
プログラム期間	2019年 2月 11日 ~ 2019年 3月 15日

報告事項

① 留学先(参加プログラム/受入れ機関)の概略

クイーンズランド大学の英語教育機関 ICTE-UQ はクイーンズランド州で最も歴史のある政府認定語学学校であり、日本をはじめとして、中国、インドネシア、サウジアラビアなど様々な国籍を持つ留学生が英語を勉強している。私が参加したプログラムの科目は GENERAL ENGLISH であり、ここではアカデミックではない日常的な英語を学ぶことができる。他にもビジネスコースやアカデミックコースなどが用意されており、自分の目的に合った英語を学習できるのも魅力である。



クイーンズランド大学の入口の様子。大学の敷地はとても広く、自然豊か。大学の建物は全て同じ種類の石で作られており、高級感があり美しい。

② 留学先での授業内容

英語の4技能(スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング)に加え文法、発音、語彙などをバランスよく学んだ。スピーキングは質問が10個ほど書かれた紙が配られ、生徒同士で質問し合いそれに答えて会話を続けるという形式が多かった。また、4人ほどのグループで何か一つのテーマについて話し合い、自分の意見を述べる機会もあった。リスニングはネイティブスピーカーがインタビューに答えている動画を見たり、4択のリスニング問題を解いたりした。リーディングは教科書にある文章を読み、その要約を他の生徒に説明するなどスピーキングの練習も兼ねて行うことが多かった。

ライティングは正しい書き方を授業で説明してもらい、課題として 250 字程度のエッセーや他己紹介などを書いた。文法は現在完了(have done)と現在完了進行形(have been doing)の意味合いの違いなど、基本的な文法は既知として、よりハイレベルな文法をいかに身につけるかということに焦点が当てられていた。発音練習では[o:]と[ou]の微妙な違いや、日本人が混同しがちな[l]と[r]など、より正確に発音するための練習をした。生徒の母国語によって苦手な発音が異なり、クラス全員で苦手克服を目指した。語彙は授業で知らない単語が出てくるたびに先生が解説してくれ、同じような意味の単語の使い方の違いを明確にした。また、4 チームに分かれて授業で習った単語を書く勝負などをする事も多く、英語を楽しんで学べるような授業内容となっている。

授業時間は1日4時間で、その時間ずっと英語を聞き、話すという英語学習者には理想的な環境であった。教室内では英語のみで会話することがルールであった。

③ 留学先での課外活動

ほぼ毎日、授業後にアクティビティと呼ばれる活動があり、そこではサッカーや美術館ツアー、現地の学生との英会話など様々なイベントを体験することができた。それと同時に、より深く学習したい人向けのワークショップが開かれており、英語の各技能に特化した勉強法を学ぶことができた。



左から、動物園のカンガルー、高層ビル群をバックに置かれた BRISBANE(クイーンズランド大学のある都市)の文字、ゴールドコースト(大学から電車で1時間ほどの観光地)のビーチの写真である。自然豊かであるが、都市部は高層ビルが建ち並ぶブリスベンのはんびりと過ごすにも全力で遊ぶにも買い物をするにも適しており、放課後退屈することはなかった。

④ 留学から何を学び、それを今後どのように活かしたいか

今回の語学留学・ホームステイを通して得たものは主に英語力・他文化適応力・早寝早起きである。5週間の英語学習プログラムを通して英語力が身についたのはもちろんのこと、自分に合った効率の良い英語の勉強法を知ることができたのは大きな収穫であった。今までの自分の英語学習法の間違いに気づく良い機会となった。他国籍のクラスメイトに比べ、日本人は文法・リーディング力が優れているにも関わらず、自分の意見を言うことができないことが多いような気がした。これは日本でのスピーキング練習不足はもちろん、日常的な問題や国際的課題に対してそもそも意見を持っていない日本人が多いことが原因であろう。英語が1つの言語である以上、英語を勉強する上で十分な国語力を身につける必要があることを痛感した。今後は効率的な英語学習を継続し英語力を上げていくと

もに、国際問題に対する自分なりの意見を持ち、それを他人に伝える力を身につけていきたい。

他文化適応力に関しては、オーストラリア人の一般家庭へのホームステイを通して得たものが大きかった。5週間の滞在期間中、カルチャーショックによって嫌な思いをすることはなく、文化の違いを純粹に楽しむことができた。これは他文化を排他的に捉えず、理解しようとする心の大切さを再確認させてくれる経験であった。今後は日本にいる外国人に寛大な心をもって接すると同時に、文化の違いを優しく教えてあげたい。

3つ目の早寝早起きに関しては、学んだことではないが今後活かせるものとして記載した。オーストラリア人は早起きをする人が多く、語学学校の授業開始時間も日本と比べて早く、8時15分であった。また、午後5時くらいに閉まってしまうスーパーやショッピングモールも多く、これも早寝を促す結果となった。5週間の早寝早起き生活を通して、朝の時間の有効活用ができ、夜9時には眠くなる生活スタイルはとても効率的で健康的であり、日本でも継続したい。

⑤ 留学前の準備

留学情報は東工大の留学情報サイトや、留学情報館に直接質問しに行くことで得た。航空券及びビザの取得は自分で旅行会社へ足を運びそこでの担当者に依頼した。英語の勉強に関しては留学1か月前から最低限のスピーキング力とリスニング力を身につけようと思い勉強をしたが不十分であった。語学留学をするにしても英語はしっかりと勉強してから行くべきだと感じた。また、私は今回の留学が初めての海外であったためにパスポートの取得、予備のクレジットカードの作成、現地の情報収集など、準備としてやらなければならないことは多かった。

⑥ 留学費用

AUS\$1=80円として計算。

航空券(成田空港ーブリスベン空港直行便):189000円(出入国税・旅行会社手数料等込み)

UQ 授業料:172000円

UQ 入学金:17600円

UQ 学生サービス等:8000円

ホームステイ(5週間):124800円(斡旋費含む)

パスポート(5年分):11000円

保険料:約2万円

生活費:約6万円(土産代含む)

JASSO 奨学金:14万円(2か月分)

⑦ 留学先での住居

留学先での住居:ホームステイ

探し方・申し込み:クイーンズランド大学の斡旋・大学に代金振り込み

ルームメイト:なし

オーストラリアの家は基本的に日本の家よりも広く快適。ただ窓やドアは開けっ放しのため、部屋にも蛾やハエなどの虫がいた。珍しい虫が好きな人にはいい環境だと思うが、私は虫が苦手だったのでホストファーザーに部屋の中の虫を捕まえてもらうこともあった。

⑧ 留学を希望する後輩へアドバイス

5週間海外で生活をし、英語を勉強することは本当に良い経験になる。特に海外の家庭にホームステイすることは社会人になってから経験することはできないので、行くかどうかで迷うなら大学生のうちに行くべきだと私は思う。留学にはお金も時間もかかるが、留学で得る経験はそれに値する、もしくはそれ以上のものがある。また大学生のうち短期でもいいから留学をしておくことで将来の選択肢も増えるに違いない。



大学内で出会った野生のポッサム。ブリスベンには様々な野生動物が住んでいる。